

「被災地の保健師 100 人の声」(宮城県)



アンケートのまとめ と 話し合い

—東日本大震災の現地の保健師のたたかいと苦悩—

何が問題であったか。来る大震災にどう生かすか。

主催：『被災地の保健師 100 人の声』プロジェクト

共催：特定非営利活動法人 非営利・協同総合研究所いのちとくらし

後援：三陸新報社、石巻日日新聞社、三陸河北新報社、

日時 2013年4月13日(土) 12:00~16:00

場所 仙台市宮城野区中央市民センター2階第1会議室

仙台市宮城野区五輪2丁目12-70 TEL:022-257-1213

仙石線陸前原ノ町駅下車1分、駐車場有 (地図:裏面に)

*昼食を済ませてお集まりください。*連絡先:tel& fax 022-365-5441(村口至)

[企画内容] 参加自由、無料

I部 **報告**:アンケートのまとめ(保健師)

講演:高知県中央東福祉保健所長 田上豊資先生

「震災と地域保健の課題」

II部 **話し合い**・・会場参加者とコメンテーターを交えて

コメンテーター:石川広巳(日本医師会常任理事)

菊地頌子(全国保健師の集い事務局長)

西郡光昭(元宮城県保健福祉部長)

III部 **提言** (保健師)

☆ 大震災で保健師たちが立ち向かったこと ☆ 何に悩み、何を感じたか

☆ その苦悩はどこから来るのか

☆ 地域保健法は役にたったか ☆ 保健所は期待にそえたか

☆ 平成の合併は震災に強かったか ☆ 地域保健の再興に当り、課題は何か

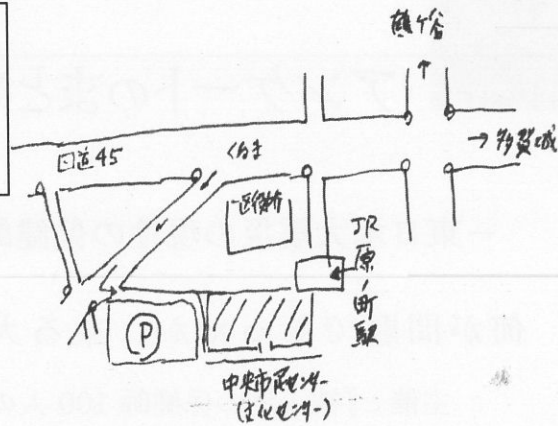
☆ 保健師のやりがい、生きがいはどうだったか

etc. etc.

JR 仙台駅発時刻

11:21

11:37 原ノ町駅まで6分



【アンケートから】★今でも「これでよかったのか」「もっとやれることがあったのではないか」との思いが付きまとう。★求められることが大きすぎて、嫌になった。★震災対応した保健師同士の分かち合いの時間がほしいが、再度傷つくことを恐れる。★当時のことはあまり記憶にない。家族を後回しにしたことが一生の後悔です。★フラッシュバックするので、今、このようなアンケートは危険だ。★地区担当制のメリットも大きい。偏りのない業務調整、人員配置が必要。★県、公立病院との関係。正直なところ何を期待してよいのか分からなくなった。★現場で無力感に陥っていたときには、県・福祉事務所からの強力なサポートが必要だった。★市民の命を守るという使命感で向き合ってきたが、長期になると「このまま一生つづくのではないか」との強迫的気持ちになり辛い。★震災直後、避難所廻りで、生きていることの喜びの分かち合いや悲しみあったりできるしごとに対して喜びを感じた。★身近な保健医療関係者として、様々な立場の方から期待されている存在だと改めて感じた。★保健師でよかった。